ainoha

— アイバノコトノハ —

特集　その後どのように暮らしていますか？

趣味を楽しむ「秘密基地のある家」

take free
ご自由にお持ち帰りください

2018＊September vol.81

特集　その後どのように暮らしていますか？

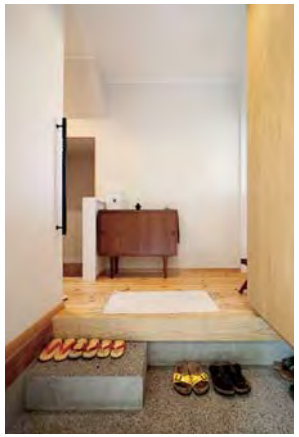
趣味を楽しむ「秘密基地のある家」

埼玉県所沢市 | 戸建てリフォーム | T邸（ご夫婦＋お子様1人）

1
ストーリー

坂道を上った先に建つ、三角屋根と白い外観が印象的なおうち。ここに住みはじめてから3年ほど経つ、3人家族のＴ様の暮らしを訪ねました。自転車仲間が集まるお店で出会ったというご主人と奥様。自転車に乗って街中や山や森を走ったり、さらには太平洋から日本海へ列島横断の旅をしたり……と、大の自転車好き夫婦です。

「以前は都内のマンションに住んでいましたが、娘が小学校に上がるタイミングで両親のいる実家近くに引っ越そうと考えていたんです。家探しで一番重視していたポイントが " 自転車やキャンプ道具をしまえる場所があること " で、この家にはまさにぴったりな地下室があったんです。近くにすぐ走りに行ける山があったのも決め手でしたね」とご主人。



▲ 収納たっぷりの2階寝室。奥は子ども部屋。

2
少しずつリフォーム

家を購入後、まずは自分たちが住めるように内部工事をし、住みはじめて半年後に外壁や玄関アプローチなどの外部工事をするという2回に分けてのリフォームが行われました。「生活スタイルって時代とともにどんどん変わっていくし、中古住宅だから住んでみないとわからない部分があったからね。一度に全部盛り込まないで、徐々に変えていける方が良いと思って」とご主人。玄関の土間にビー玉を埋め込んだり、ご主人自ら机の塗装や棚を造作するなど今でも少しずつ手を加えられているT邸。「ゆくゆくは、庭に通勤用の自転車ポート兼ツリーハウスもつくれたら」と、ワクワクするようなお話も！ゆっくりと楽しみながらT様らしい暮らしがつくられているようでした。

3
暮らしの工夫

▲ 家族みんなでつくる家

＼みんなで壁塗りDIY!／

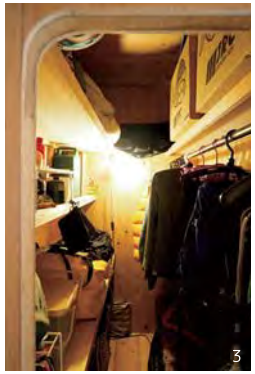
家族やスタッフみんなで二日間かけて壁塗りDIYをした、1階部分の湯布珪藻土の壁。「WonderWallの井筒さんやAIBAスタッフの栗林さん、藤村さんも参加してくれてすごく良い思い出になりました！湯布珪藻土だと傷がついても補修が簡単なんです」とニッコリ笑顔のＴ様。

▶ before & DIY風景

秘密基地のような地下室

▼

もともと和室だったという地下室は、板を貼って趣味を楽しむ隠れ家へと生まれ変わりました。収納スペースとしてだけでなく、ご近所さんをお招きした小さな演奏会をひらくことも。「新築に手を加えるのは抵抗があるけれど、リフォームだからこそ思い切って楽しめるよ！」



1：12台の自転車が収納できるスペース。2：地下室からすぐ外へ。
3：洞窟のようなキャンプ道具収納庫。4：自転車アイテムたち。

取材後記

「家は建ててからがスタートです！」と楽しそうにお話ししてくださったＴ様ご夫婦。リフォームだからこそ柔軟なアイディアと手を加えられる面白さがあるのだなぁと、お住まいを拝見してしみじみ感じました。家のどこを見てもワクワクがとまりませんでした。今後はお庭ももっと充実させていきたいとのことで、Ｔ様のさらなる暮らしの変化がとても楽しみです。（記：広報　吉川）

リフォーム設計・施工：相羽建設／撮影取材・編集：栗林・伊藤・吉川
ainohaバックナンバー　http://aibaeco.co.jp/100story/life/

ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　その後どのように暮らしていますか？

旅の思い出を飾る家

take free
ご自由にお持ち帰りください

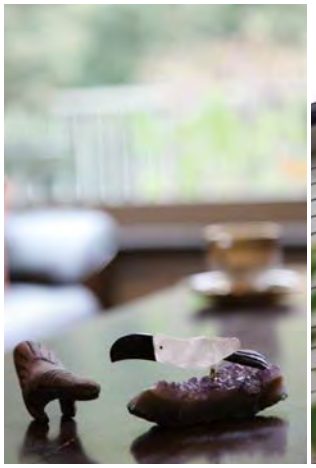
2016＊November vol.59

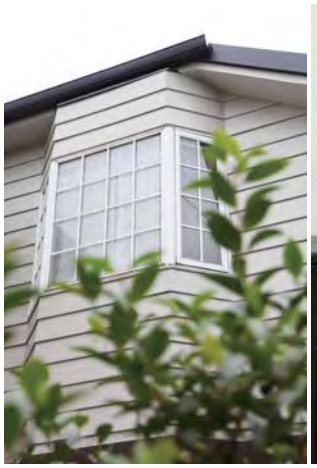
リビングルーム

特集　その後どのように暮らしていますか？

旅の思い出を飾る家

東京都小平市｜ご夫婦＋娘さん｜戸建リフォーム



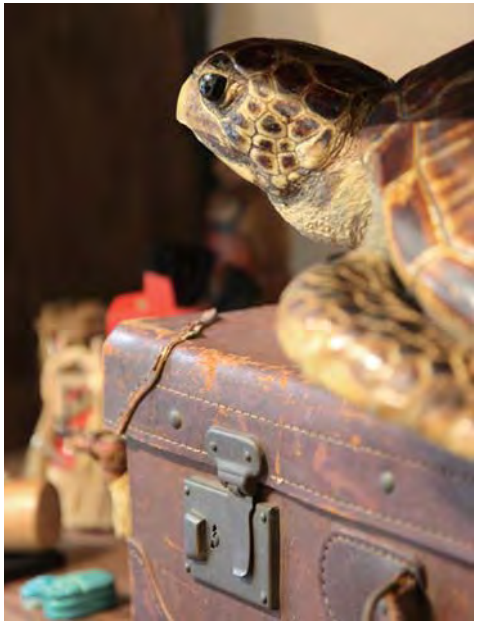


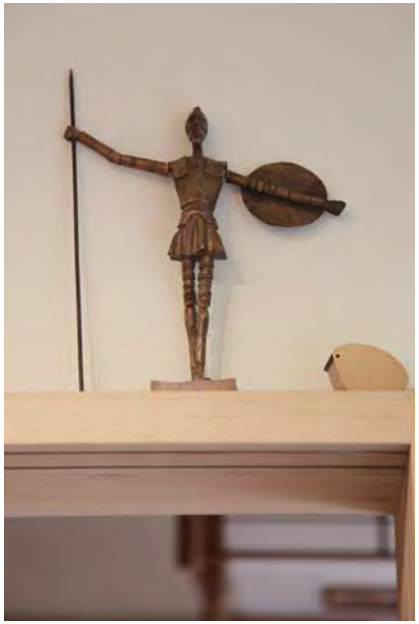
1
ストーリー

今回ご紹介するのは、築30年のお住まいをリフォームしたM様の暮らし。

M様のお住まいは、外から眺めると一見普通の住宅街の中にあるように見えますが、室内へ入ると窓の向こう側には大きな樹々が育つ、深い緑の森がひろがっていました。

この家に住みはじめて30年。経年劣化で床やガスコンロが故障したことをキッカケに「30年目の総点検」をしようと考えたM様ご家族。建築士である娘さんの「見えない部分まで心配事を取り除き、これからも健康に快適に年を重ねていける家になるように。そして、設計者として考える快適な住まいを両親にも体感してもらいたい」――そんな想いから今回のリフォームがはじまりました。





2
旅の思い出を飾る

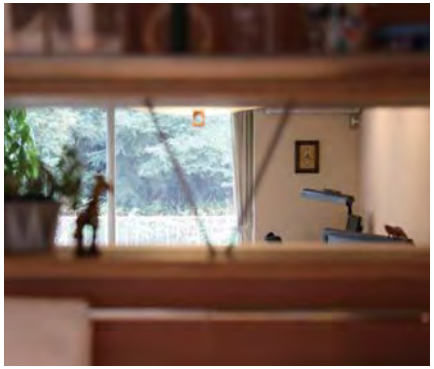
もともと家具や建具を気に入っていて、間取りにも不満はなかったというM様。そこで、間取りは変えず、空間の伸びやかさや窓から見える森の景色を活かすように設計をすすめたそうです。例えば、リビングと和室の間の引き違い戸を全引き込みにしたり、障子を上げ下げ式にすることでウチ・ソトのつながりが増して、ほとんど使っていなかった和室も今では居心地の良い場所のひとつに。

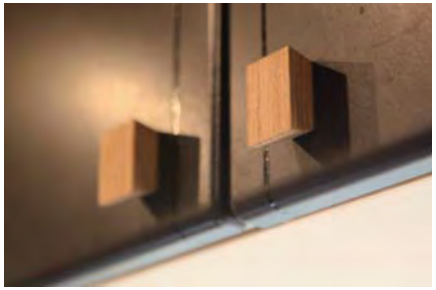
また、現役中は海外出張も多かったというお父様と、マダガスカルや南アフリカなどの秘境にも行ったお母様という、旅好きなご夫婦。旅から気に入った小物や雑貨を持ち帰るのが楽しみのひとつで、家には数々の品がありました。そこで、それらを飾る棚が、生活の中心となるダイニングにつくられました。

「元気に出掛けられるうちは色々なところに行って、歳とった時に棚を眺めて旅の記憶を思い出し、夫婦で楽しんでもらえたら」と、娘さん。

「『世界の国から』コーナー」と名づけられたこの棚は、M様の家の中でも特別な場所になっているようでした。

3
ここをリフォームしました！





◀ 手前は「掃除流し」用のシンク。お母様の長年の希望で実現。手洗いにも使えて大活躍。

新旧合作、こだわりのキッチン

システムキッチンは入れ替えて新しいものに。一方で、吊戸棚は箱部分を大工さんに造作してもらい、扉は古いものを活かしています。扉の取っ手を木に交換するなど、キッチン本体とデザインのバランスが合うようにアレンジ。背面カウンター側も、既存のユニット家具と大工さん、塗装屋さん、建具屋さんの合作です。一見、新しいものと古いものが組み合わさっていることに気づかないほどの一体感！また、キッチンの特徴のひとつ、水柿色の壁と天井はお母様と娘さん2人でDIY塗装をしたのだそう。「塗装屋さんが丁寧に下地をつくってくださったので、良い仕上がりになりました。キッチンが華やかで大成功です」と娘さん。
ダイニングとの間に設けられた小さな窓からは、樹々の緑が眺められ「景色も楽しめ、家族の気配も伝わるようになって、幸せです」とお母様。キッチンにいる時間もより楽しくなったそうです。

しっとりと落ち着いたリビング・ダイニング

家族の中心となるリビング・ダイニング。当初は「堅木の床に床暖房を入れ、さらにカーペットを敷きたい」という希望と、床暖房とカーペットの相性の悪さに悩んでいたお母様。かわりに当社から提案したのが「足に優しい針葉樹の赤松フローリングと床下の吹き付け断熱」でした。カーペットも敷け「10月になっても足元が冷えることなく快適」だそうです。この床材の黒い色は拭き漆で、水拭きするたびに、より味わいのある表情になっていくため、お掃除好きのお母様もとても気に入られているようでした。

取材後記

旅のお話をたくさんお聞きできて、とても楽しい時間でした。家の外での想い出を大事に残しておける場所が、家の中にあるってすごく素敵なことだなぁと感じました。今後も少しずつ住まいに手を入れていきたいというM様。近々お父様の得意の日曜大工の腕を借りつつ、家族一緒に庭づくりを進めていくそうです。住みはじめてからもまだまだワクワクすることがたくさんある、M様の暮らしでした。（記：広報 吉川）

設計：一級建築士事務所 タブ　/　取材・撮影：伊藤・吉川

ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　その後どのように暮らしていますか？

小さなお家と大きなお庭

take free
ご自由にお持ち帰りください

2016 * August vol.56

1
家づくり
ストーリー

特集　その後どのように暮らしていますか？

小さなお家と大きなお庭

武蔵村山市｜Ｆ邸（ご夫婦2人＋子ども2人）｜木造ドミノ住宅

住みはじめて1年。家族4人で仲良く暮らすＦ様のお住まいを訪ねました。敷地いっぱいに広がるグリーンの芝生の庭では、子ども達の遊ぶ元気な笑い声。以前は借家の平屋に暮らしていたというＦ様。庭では子どもたちが裸足で駆けまわったり、家の中は壁を塗ったり棚をつくって自由にDIYできたりと、のびのびとした家だったそうです。事情により家を取り壊すことになり、次の家探しをするも「やはり以前住んでいた家と同じような環境がほしい。けれど、DIYや庭のある家を探したり実現させるのは賃貸では難しい……」そんな悩みをもっていた奥さまがある日ご主人から一言「それなら自分でつくってみたら？」。この言葉に背中を押され、DIYの家づくり集団「HandiHouse project」の加藤さんと出会い、家のスケルトンを相羽建設が施工、内装工事を加藤さんとＦ様ご家族が手がける、参加型の家づくりがはじまったのです。

2 自分たちでつくる家

「０から考えてください」。家づくりの際、最初に加藤さんから言われた言葉。HandiHouse projectの家づくりは、基本的な間取りや素材などはお施主さん自身に考えてもらうスタイル。選べる楽しさがある分、迷うこともたくさんあったという奥様。半年以上の設計期間をかけ、間取りの位置を全部自分たちで考えたといいます。大工さんたちによる上棟後、内装工事はほぼＦ様と加藤さんで施工。Ｆ様は壁塗りメインでDIY。「天井を塗るのが一番大変でした。翌日腕が筋肉痛に（笑）でも自分たちでやった作業は全部楽しかったです！」とＦ様。家づくり中は職人さんたちの仕事を間近で見たり、上棟時のまだ屋根がついていない状態の2階で青空の下みんなでお弁当を食べたり。そして家族みんなでつくったことは、子どもたちがずっと忘れられない貴重な体験となったそうです。「あの1年はずっと家のことばかり考えていました」と笑う奥様。

みんなで一緒にDIY！

上棟後、約2ヶ月ほどかけて内装工事は無事に完了！
床の養生をみんなで剥がす瞬間は感動もの。

↓Ｆ様の家づくりの様子は動画でも紹介されています
https://youtu.be/vSqhSi65m54

庭にはハンモックや緑のカーテンをつけたり、使い方自由のビッグフレームが設置されています。

3 2階は遊びスペース

「壁面本棚をつくりたい！」という希望からアイディアがふくらんだ2階。ボルダリングやハンモック、登れる収納棚や座れる本棚など「子どもの頃に憧れていたものをつけよう」と遊び心いっぱいのスペースに。夜はみんなで仲良く川の字で寝ます。目の前は川、隣は森。夏でも窓を開けていれば涼しい風が入ってくるおかげエアコンいらずで過ごせるそうです！

4 家族の顔が見えるキッチン

「以前の家はキッチンが狭く孤立していたので、キッチンにはこだわりたかったんです」と奥様。できるだけ家族の顔が見えるように流し台をリビング向きに設置しました。キッチンは流し台のシンクを特注し、それにぴったり合わせた加藤さんの造作によるもの。DIYで塗装したキッチンの紺色の壁も家の中の素敵なワンポイントになっています。新たなキッチンでぐっと近くなった家族の距離。奥様がお料理している時も家族みんなの楽しい会話が聞こえてきます。

取材後記

取材の中で「新築したはずなのに、住みはじめた時からなんだかずっとこの家に住んでいたような感覚がありました」とお話されていたＦ様。家は変わっても、家族の過ごし方や距離感は変わらず仲良し。そんなＦ様のライフスタイルがとても素敵だなぁと感じたひと時でした。（記：広報　吉川）

HandiHouse project→ http://handihouse-project.jp/
取材：伊藤・吉川…取材後記はコチラ→ http://ameblo.jp/ainohablog/

ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　その後どのように暮らしていますか？

空き家リノベーション

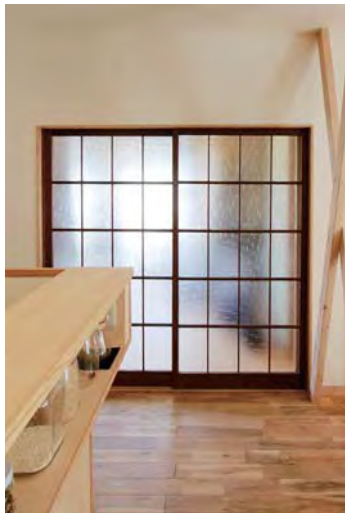
take free
ご自由にお持ち帰りください

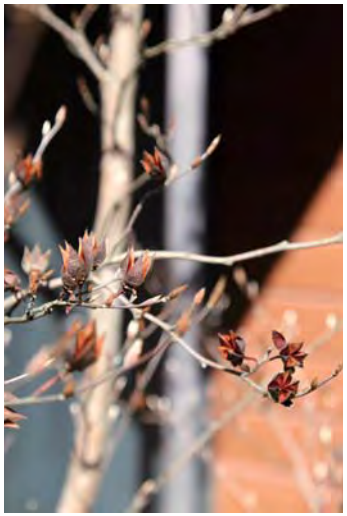
2016 * April vol.52

特集　その後どのように暮らしていますか？

空き家リノベーション

八王子市｜Ｇ邸（ご夫婦2人＋子ども1人）｜木造一戸建てリノベーション



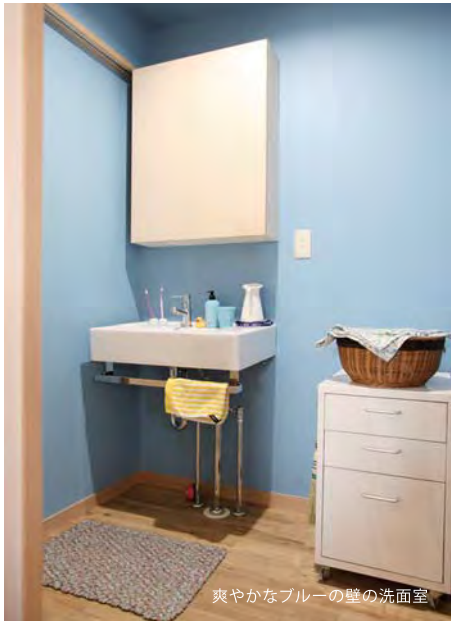


1
家づくりストーリー

今回は築50年ほど経つ家をリノベーションしたＧ様のお住まいを訪ねました。
お子様が生まれることをキッカケに「子どもにとって良い環境でありつつ、子育ての間も自分たちらしく楽しめる暮らしは出来ないかな？」と家づくりを考えはじめたＧ様。戸建て・マンション・賃貸……様々な暮らしを考えた結果、空き家となっていたおばあ様の家を自分たちで引継ぎ、リノベーションすることを決意されました。お子様の成長期間から「まずは10年住める家に」と決め、その期間に払うことになるであろう、当時住んでいたマンション家賃の半分ほどの額を工事費用としました。10年後には、その時の状況に合わせて建て替え・住み替えなどをじっくりと考えられる、柔軟性のある素敵な選択です。

「カギ置きに」と大工さんがつくってくれたというニッチ

大工さんのつくる家具「大工の手」ソファベンチ



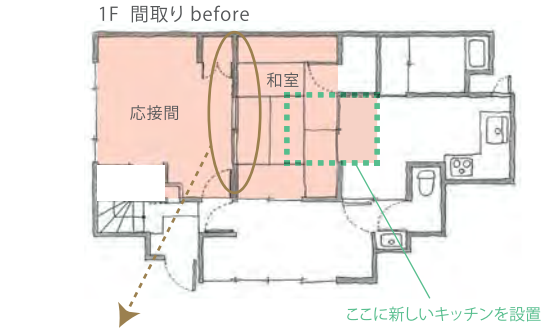
爽やかなブルーの壁の洗面室

2
キッチンが中心の人が集まれる家

家でギターやウクレレを楽しんだり友人と山登りやスキーに行ったり、畑で育てた野菜や自家製の味噌を使って料理したり……と幅広い趣味を持つＧ様ご夫婦。家づくりの際も趣味を楽しむ暮らしを大事にしようと、家にかける費用をできるだけ抑え、必要な部分にしぼった改修工事を計画されました。

「まずは１階から手を加えていくことにしました。友人がよく遊びに来てみんなでご飯を食べたりするので、１階キッチンを中心にした、人が集まれる家にしようと思ったんです」と語るＧ様。そこで、以前は部屋を２つに分けていた壁を撤去してLDKのゆったりワンルームとし、対面キッチンを設置しました。

「キッチンが広くなって、友人たちとワイワイ使えるようになったのが嬉しいです。最初は10年くらい住めれば良いかなと思っていたけれど、暮らしていくうちにずっと住み続けたいなぁと思ってきました」とニッコリ笑顔のＧ様。



応接間と和室の間仕切り壁を取り払い、家族や友人が集まれるLDKに

3
ここをリノベーションしました！

▲ キッチン

お料理の下準備やみんなで一緒に使いやすいようにと、ゆったりとした対面の木製キッチンに。「水や油がはるけれど、10年という期間を考えて、キッチン天板も思い切って木製にしました」とG様。
奥のりっぱなピラルクーの魚拓はお父さまの友人（アマゾン研究家）からの頂き物だそうです。プラン当初から「ピラルクーの魚拓が飾れる部屋にしよう！」とそのサイズに合わせた空間の設計が進められました。

もともと和室だったところを改修し、
新しくキッチンを設置しました。

▲ 遊びスペース

1階廊下の壁は、G様が職人さんたちと一緒にDIYでピンクやモスグリーンの色に塗装しました。奥には子どもたちがお絵かきできるよう黒板塗料を塗った壁面もあり、なんだかワクワクするような居場所。床はやわらかい無垢材の板貼りで、その下には断熱補強もしっかりとなされています。今ではすっかり遊びに来た子どもたちのお気に入りスペースとなっているそうです。

塗装屋さんとG様ご夫婦とAIBAスタッフ↑

取材後記

G様は家の近くに畑を借りていて、夏の時期のほとんどは、自分たちで育てた野菜が食卓に並ぶそうです。取材後もお昼をごちそうになり、その時のお味噌汁の味噌も自家製とのこと！手づくりの美味しさには幸せな気持ちになりますね。「今後は2階や、1階のもう一つのキッチンにも手を加えていきながら、また少しずつ家をつくっていきたいです。未完成を楽しみたい！」とG様。手づくりの暮らし、とても素敵です。（記：広報 吉川）

取材：伊藤・桑山・吉川　取材後記はコチラ→ http://ameblo.jp/ainohablog/